

ルカの福音書 46回  
悪霊につかれた少年の癒し  
ルカ9:37~45

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕(ルカ4:14~9:50)
- ②ルカ9:1~50は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅(ルカ9:51~19:10)へのブリッジである。
- ④ルカ9:1~50の中心テーマは、弟子訓練である。

\*教会時代への準備が始まる。

(2) ルカ9:1~45の内容

- ①12人の派遣(1~6節)
- ②挿入句的エピソード(ヘロデの心理状態)(7~9節)
- ③12人の帰還(10~17節)
- ④ペテロの信仰告白(18~27節)
- ⑤イエスの変貌(28~36節)

\*教会時代に向けた弟子訓練である。

⑥悪霊につかれた少年の癒し(37~43節a)

\*山頂で栄光の姿を現わしたイエスが、山麓で悪霊につかれた少年を癒す。

\*イエスは、弟子たちにできないことを行われる。

⑦受難の予告(43b~45節)

\*群衆は驚嘆したが、最終的には、彼らはイエスを拒否する。

\*それがイエスの十字架の死につながる。

2. アウトライン

- (1) 悪霊につかれた少年の癒し(37~43節a)
- (2) 受難の予告(43b~45節)

3. 結論: 弟子訓練の内容

- (1) 信仰の欠如
- (2) 学ぶ力の欠如
- (3) 謙遜の欠如
- (4) 寛容の欠如

悪霊につかれた少年の癒しと受難の予告について学ぶ。

## I. 悪霊につかれた少年の癒し (37~43 節 a)

### 1. 37 節

Luk 9:37 次の日、一行が山から下りて来ると、大勢の群衆がイエスを迎えた。

(1) ルカだけが「次の日」と書いている。

①変貌の出来事は、夜間起こったと考えられる。

\*「ペテロと仲間たちは眠くてたまらなかったが、」(32 節) とあった。

②山頂での栄光の現れと山麓での問題(罪と不信仰)との対比がある。

③私たちの人生においても、似たようなことが起こる。

\*山頂の体験と麓の体験のくり返し

\*イエスは、私たちが直面する現実の問題に介入して下さる。

(2) 4人が山から下りて来ると、大勢の群衆がイエスを迎えた。

①彼らはイエスを待ちわびていた。彼らは、多くの必要を抱えていた。

②イエスの下山を一番待ちわびていた一人の人が登場する。

### 2. 38~40 節

Luk 9:38 すると見よ、群衆の中から、一人の人が叫んで言った。「先生、お願いします。息子を見てやってください。私の一人息子です。」

Luk 9:39 ご覧ください。霊がこの子に取りつくると、突然叫びます。そして、引きつけを起こさせて泡を吹かせ、打ちのめして、なかなか離れようとしません。

Luk 9:40 あなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」

(1) 群衆の中から、一人の父親が叫んで言った。

①彼の一人息子が苦しんでいた。

②ルカだけが、「一人息子」と書いている。

(2) ルカは、この少年が「てんかん」持ちだとは書いていない。

①マタ 17:15

Mat 17:15 こう言った。「主よ、私の息子をあわれんでください。てんかんで、たいへん苦しんでいます。何度も火の中に倒れ、また何度も水の中に倒れました。」

②ルカは、少年の苦しみの原因は悪霊にあることを読者に示している。

③悪霊は、てんかんに似た症状を作り出していた。

④歴史上、「てんかん=悪霊つき」とされた時期があった。

- ⑤この少年の症状は、明らかに悪霊の攻撃によるものであった。
- ⑥悪霊が取りつくと、少年はてんかんのような症状を示した。

(3) 弟子たちは無力であった。

- ①弟子たちは、長血の女を治すことができなかつた医者たちのようである。
- ②ルカ 8 : 43

Luk 8:43 そこに、十二年の間、長血をわずらい、医者たちに財産すべてを費やしたのに、だれにも治してもらえなかつた女の人があった。

- ③これで、イエスの力と権威が発揮される舞台が整った。
- ④イエスは、弟子たちにできなかつたことをされる。

### 3. 41～42 節

Luk 9:41 イエスは答えられた。「ああ、不信仰な曲がつた時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいて、あなたがたに我慢しなければならぬのか。あなたの子をここに連れて来なさい。」

Luk 9:42 その子が来る途中でも、悪霊は彼を倒して引きつけを起こさせた。しかし、イエスは汚れた霊を叱り、その子を癒やして父親に渡された。

- (1) イエスが語ったことばは、申 32 : 20 を想起させる。
  - ①神は、荒野を旅するイスラエルの民の不信仰を叱責された。
  - ②申 32 : 20

Deu 32:20 主は言われた。／「わたしの顔を彼らから隠し、／彼らの終わりがどうなるかを見よう。／彼らは、ねじれた世代、／真実のない子らであるから。」

- (2) イエスは、人々の信仰の欠如を嘆かれた。
  - ①ルカは、イエスと父親の対話を省略している。
  - ②マコ 9 : 23～24

Mar 9:23 イエスは言われた。「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」

Mar 9:24 するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

- ③ルカは、イエスの力と権威に焦点を合わせている。

(3) イエスは汚れた霊を叱り、その子を癒やして父親に渡された。

- ①イエスは、ことばを発するだけで悪霊を追い出された。
- ②イエスは、その子を父親に渡された。

③ルカは、イエスのあわれみを強調している。

#### 4. 43節 a

**Luk 9:43a 人々はみな、神の偉大さに驚嘆した。**

(1) この箇所<sup>1</sup>の結論として、群衆の反応が取り上げられる。

- ①人々はみな、神の偉大さに驚嘆した。
- ②彼らは、イエスは神だという結論を出すべきであった。
- ③しかし彼らは、最終的にはイエスを拒否する。
- ④群衆の反応は、次のテーマである受難の予告へとつながっていく。

## II. 受難の予告 (43b~45節)

### 1. 43b~44節

**Luk 9:43b イエスがなさったすべてのことに人々がみな驚いていると、イエスは弟子たちにこう言われた。**

**Luk 9:44 「あなたがたは、これらのことばを自分の耳に入れておきなさい。人の子は、人々の手に渡されようとしています。」**

(1) 悪霊に対する権威を持つイエスと、人々の手に渡される人の子の対比がある。

- ①イエスは、十字架への道を歩み始めておられた。
- ②イエスは、父なる神から与えられた運命を受けとめておられた。
- ③ルカ 9 : 35

**Luk 9:35 すると雲の中から言う声がした。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。」**

④しかし弟子たちは、イエスの言うことに耳を傾けなかった。

(2) 群衆は感銘を受けたが、イエスは、この状態は長続きしないことを知っていた。

- ①イエスは、弟子たちの注意を喚起した。
- ②「これらのことばを自分の耳に入れておきなさい」
- ③「人の子は、人々の手に渡されようとしています」
- ④これは、2度目の受難の予告である。

### 2. 45節

**Luk 9:45 しかし、弟子たちには、このことばが理解できなかった。彼らには分からないように、彼らから隠されていたのであった。彼らは、このことばについてイエスに尋ねるのを恐れていた。**

(1) 弟子たちには、このことばが理解できなかった。

- ①当時のユダヤ人たちが抱いていたメシア像の影響を受けていた。
    - \*メシアは、栄光の王として地上に来られる。
    - \*メシアが死ねば、神の計画は失敗に終わる。
  - ②群衆の支持を受けているのだから、拒否されることはないという思い込み。
  - ③イエスのことばを聞いていたが、その意味を理解することができなかった。
- (2)「彼らには分からないように、彼らから隠されていたのであった」
- ①イエスのことばを理解できなかった理由は、不信仰と思い込みである。
  - ②弟子たちがこの預言の意味を理解するのは、復活以降のことである。
  - ③神の計画は、弟子たちの無理解にもかかわらず前進していく。
- (3)「彼らは、このことばについてイエスに尋ねるのを恐れていた」
- ①彼らは、極めて人間的な理由で、イエスに質問するのを恐れた。
  - ②聞きたくないことを聞かされるのを恐れた。
  - ③彼らは、イエスが間もなく死ぬかもしれないということを恐れた。

### 結論：弟子訓練の内容

#### 1. 信仰の欠如 (37～43 節 a)

- (1) 弟子たちは、少年から悪霊を追い出せなかった。
- (2) イエスは、「ああ、不信仰な曲がった時代だ」と言われた。

#### 2. 学ぶ力の欠如 (43b～45 節)

- (1) 不信仰と思い込みが、弟子たちの理解力の妨げとなっていた。
- (2) イエスの公生涯には、2つの秘密があった。

##### ①メシア的秘密

- \*イエスは神が人となられたメシアである。
- \*民衆の表面的な信仰を避けるために、このことが秘密にされた。
- \*この真理は、徐々に明らかにされていく。
- \*勝利の入城の際に、この真理が全面的に啓示される。

##### ②メシア受難的秘密

- \*弟子たちにのみ、メシア受難の予告が徐々に与えられた。
- \*復活によって、その予告の意味が明らかにされる。

#### 3. 謙遜の欠如 (46～48 節)

- (1) 弟子たちは、誰が一番偉いかという議論を始める。

#### 4. 寛容の欠如 (49～50 節)

- (1) ヨハネは、外部の人間を排除し始める。